

令和3年

松前町議会
決算審査特別委員会会議録

自 令和3年 9月 7日

至 令和3年 9月 7日

松前町議会

各 位

会議録の作成にあたっては、誤りのないよう留意しておりますが、時間の関係上原稿校正は初校しかできなく、誤字、脱字等がありますことを深くお詫び申し上げます。

まことに恐れ入りますが、御了承のうえ御判読いただきたくお願い致します。

松前町議会決算審査特別委員会委員長 福 原 英 夫

松前町議会決算審査特別委員会（第1号）

令和3年 9月 7日（火曜日）

◎付議事件

- (1) 認定第1号 令和2年度松前町一般会計歳入歳出決算認定について
- (2) 認定第2号 令和2年度松前町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について
- (3) 認定第3号 令和2年度松前町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について
- (4) 認定第4号 令和2年度松前町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
- (5) 認定第5号 令和2年度松前町水道事業会計決算認定について
- (6) 認定第6号 令和2年度松前町病院事業会計決算認定について

◎出席委員（10名）

委員長	福原英夫君	副委員長	飯田幸仁君
委員	疋田清美君	委員	沼山雄平君
委員	宮本理恵子君	委員	近江武君
委員	工藤松子君	委員	西川敏郎君
委員	斉藤勝君	委員	堺繁光君

◎欠席委員（0名）

◎職務のために出席した議員（1名）

議長 伊藤幸司君

◎出席説明員

町長	石山英雄君	副町長	若佐智弘君
総務課長兼選挙管理委員会事務局書記長		総務課総務係長兼選挙管理委員会事務局選挙係長	
	尾坂一範君		阿部亮君
総務課管財係長	小野寺伸夫君	政策財政課長	佐藤隆信君
政策財政課長補佐兼財政係長	高橋潤一郎君	政策財政課政策推進係長	川内隆靖君
政策財政課情報調整係長	平田昭浩君	税務課長兼会計管理者兼出納室長	
税務課長補佐兼課税係長兼出納室次長			三浦忠男君
	斉藤浩君	税務課納税係長	松矢龍雄君
保健福祉課長兼清部保育所長	堀川昭彦君	保健福祉課長補佐	佐々木弘幸君
保健福祉課長補佐	松村陽子君	保健福祉課介護保険係長	松谷映彦君
保健福祉課福祉係長	竹優香子君	町民課長兼大島支所長兼小島支所長兼大沢支所長	
町民課長補佐兼町民窓口係長兼大島・小島・大沢各支所町民窓口係長			岩城広紀君
	吉田絹子君	町民課生活環境係長	皆月真一君
町民課年金担当係長	福井大介君	町民課国保医療給付係長	佐藤朋英君
水産課長兼水産センター所長	渡辺孝行君	水産課長補佐兼水産係長	岩島朋也君
農林畜産課長兼農業委員会事務局長		農林畜産課参事兼肉牛改良センター所長	

福井純一君
 農林畜産課長補佐兼農林係長兼農業委員会事務局次長兼農地係長
 小野寺孝也君
 商工観光課長補佐兼商工観光係長
 佐藤佳智君
 建設水道課長補佐兼建築係長
 高橋博君
 出納室出納係長
 清部保育所次長
 病院事務局次長
 病院事務局管理係長
 病院事務局医事係長
 学校教育課長兼学校給食センター所長
 鍋谷利彦君
 学校教育課総務係長
 文化社会教育課長
 文化社会教育課生涯学習係長
 監査委員
 議会事務局次長兼監査委員事務局次長
 鍋島孝明君

三谷幸一君
 農林畜産課畜産係長
 船尾慶人君
 商工観光課長
 田中建一君
 商工観光課公園係長
 松浦慎也君
 建設水道課長
 横山義和君
 建設水道課長補佐兼水道係長
 五十嵐範明君
 河野光治君
 建設水道課土木係長
 大島支所次長兼小島支所次長兼大沢支所次長
 斉藤明君
 病院事務局次長
 小平裕一君
 病院事務局経理担当係長
 小野寺恵子君
 教育長
 宮島武司君
 学校教育課長補佐兼学校給食センター次長
 斉藤広文君
 学校教育課学校教育係長
 佐々木恵一君
 文化社会教育課長補佐
 熊谷直実君
 文化社会教育課文化財係長
 佐藤雄生君
 監査委員
 梶谷康介君
 議会事務局次長兼総務課係長兼監査委員事務局次長兼監査係長
 佐藤巧君

◎職務のため議場に出席した事務局職員
 議会事務局長 鍋島孝明君
 議会事務局書記 三上大輔君

議会事務局次長 佐藤巧君

(開会 午後 0時58分)

○福原委員長 今日のご苦勞様です。午前中の議会から午後に、これから決算審査の特別委員会を開催致します。

まず、決算委員会を招集致しましたところ、皆様には何かとご多忙のところご出席下さいまして、会議の運びに至りましたことを厚く御礼申し上げます。

直ちに本日の会議を開きます。

令和3年松前町議会第3回定例会において、地方自治法第98条第1項の検査権を付与して、本特別委員会に審査を付託されました、認定第1号から認定第6号まで6件を一括議題と致します。

審査方法についてお諮り致します。

既に定例会において概要説明がありましたが、更に細部に渡る説明資料を配布しておりますのでご了承願います。認定第1号については、歳出各款ごとに質疑をし、続いて歳入各款ごとの質疑の後、総括質疑を行い、討論、採決したいと思います。

また、認定第2号から認定第6号については、それぞれ一括質疑を行い、討論、採決したいと思います。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」という声あり)

○福原委員長 ご異議なしと認めます。

よって、認定第1号から第6号までの6件の審査は、ただ今お諮りのとおり行うことに決定しました。

これより認定第1号について審査を行います。

始めに、歳出1款議会費に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 議会費に関する質疑はこの程度に留め、2款総務費に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

沼山委員

○沼山委員 決算書51ページ1項1目19節、個人番号カード関連、説明資料23ページです。マイナンバーカードの申請、交付の状況を教えてくださいと思います。前年度は4人に1人が申請していて、5人に1人に発行したということですが、今年度、今数字動いてると思いますので、直近の状況でも良いですのでお願いします。

2点目、決算書53ページ、1項5目笑顔づくり推進事業について、説明資料24ページです。この事業10団体に交付したとありますが、その事業内容を教えてください。また、担当課、あるいは担当者としての実施された事業の評価を教えてくださいと思います。

○福原委員長 1点目、吉田課長補佐、2点目、川内係長。

○吉田課長補佐 まず、問いの1点目につきましては、令和3年8月31日現在で、人口の6千517名に対しまして、マイナンバーカードの交付申請は3千102件となっております。申請率は47.59%となっております。

また、交付枚数につきましては、2千669枚交付済みとなっております。交付率が40.95%となっております。以上です。

○福原委員長 2点目、政策財政課川内係長。

○川内係長 沼山委員よりご質問いただきました笑顔づくり推進事業の10団体の内訳に

ついてでございます。この笑顔づくり推進事業でございますが、その補助の中で大きな三つの分けておりまして、一つ目がものづくり事業、二つ目がまちづくり事業、三つ目が資格取得事業となっております。各々の内訳と致しまして、令和2年ではものづくり事業が4件、まちづくり事業が2件、資格取得事業が4件となっております。

また、この補助は目的と致しまして、地域づくりを担う人材の育成と地域資源の掘り起こしに資することを目的とするとしておりまして、各事業とも補助をいただきました皆様から、目標どおりのことができましたというようなお話をいただいております。以上です。
○福原委員長 沼山委員。

○沼山委員 マイナンバーの普及状況ですけれども、申請が47.59ということで、ほぼ町民の2人に1人が申請しているような状況です。これやっぱりマイナンバーカードの普及も随分進んでいるという印象持っておりますが、これもまた窓口の申請におけるサポート体制の充実もあるのかなあという印象を持っています。

ただ、これは、若い人から高齢者まで、様々対応してきたと思いますが、これですね、64歳以下と65歳以上ですね、交付状況っていうのわかりますか。ちょっと教えていただきたいと思います。

また、2点目なんですけど、笑顔づくりの10団体でありますけど、ちょっとこの10団体の事業内容教えていただけませんか。どのような事業をやったのかっていう、内容をちょっと教えていただきたいと思います。

○福原委員長 1点目、町民課吉田課長補佐。

○吉田課長補佐 ただ今の沼山委員さんのご質問につきましては、1点目の64歳以下の町民が3千166人に対しまして、交付件数が1千345人となっております、65歳以上の町民3千351人に対しまして、1千324人で、交付率が39.51%となっております。以上です。

○福原委員長 2点目、政策財政課川内係長。

○川内係長 ご質問いただきました笑顔づくり推進事業の各事業の事業内容になります。まず、ものづくり事業でございますが、4件ございまして、一つ目が重ね押しスタンプラリーの開発。これに関しましては、松前高校生がデザインしたスタンプを観光施設に置きまして、これを重ね押しすることで1枚の絵ができるというものになっておりました。これによりまして、観光施設への誘客や滞在時間の延長、高校生の郷土愛の醸成が図られたという結果になっております。

二つ目と致しましては、桜の里の物づくり、染め物による手芸工芸品の開発事業。これは、桜の倒木や剪定木を使いまして染め物をつくりまして、商品化を図ろうとするものでございました。実際に商品販売を行いまして、お客様の感想を得て、これからの販売に繋げることができるというようなお話を伺っております。

三つ目と致しまして、体位変換枕製作プロジェクトということで、これは、病院や介護施設等の協力で、褥瘡対策の枕56個を作成し、各施設へ販売したということです。今後は、これらをオーダーメイド致しまして、枕を作成して活用していきたいということでございました。

四つ目と致しまして、ウニ瓶に関わる化粧箱パッケージ改良商品リーフレット作成という事業で、これは現在ある商品のパッケージを改良致しまして、商談会、取引先への販売強化を目的として実施したものでございます。

次に、まちづくり事業でございますが、2件のうち1件目が、松前料飲店組合まつりということで、R2年9月5日役場駐車場で行いました。内容と致しましては、郷土料理メ

インの飲食コーナー、またイベントを実施し、郷土料理のPRができたという報告を受けております。

二つ目と致しましては、商工会青年部プレミアムサマーフェスト、R2年8月8日役場駐車場でいまして、縁日コーナーや町外移動販売などを行い、子どもから大人まで楽しめるイベントの実施により、住民意識の向上、また地元出身者の交流が図られたという報告を受けてございます。

次に、資格取得事業でございますが、こちら2件ございまして、2件とも中型自動車運転免許の取得事業となっております。これは、事業者の方からのご協力をいただきまして、この免許を取ることにより、更に各事業の推進図られるということで、中型取得免許、2名の方が取得しているところでございます。以上です。

○福原委員長 沼山委員。

○沼山委員 マイナンバーカードの方なんですけど、すごくスピード感を持ってですね、カード状況普及していると思います。今後の国のデジタル化の政策次第では、マイナンバーカード、情報の幅や利活用っていうの、おそらく広がることも予想されるんですね。そうした場合には、カード発行後の町民へのサポートも当然必要なんと思うんですが、そうしたことも準備に入れているのかどうなのかをお聞きしたいと思います。

次に、10団体の事業内容を紹介していただきました。最後にお聞きしますが、この10団体の中でですね、担当者としては、非常に可能性が高いと、非常に印象に残っているというような事業ありましたら、挙げていただきたと思います。

○福原委員長 1点目、政策財政課平田係長。

○平田係長 それでは、沼山委員のマイナンバーカードの利活用、住民へのサポートについて、私の方からお答え致します。委員おっしゃるとおり、マイナンバーカードの利活用については、国が推進してることでして、どんどん広がると思います。町のサポートですが、これまでカードの交付手続き、マイナポイントの手続きなどをサポートしてまいりました。今後は、国がマイナンバーカードの利用を推進していることから、住民が利用しやすいように事業進めてまいりたいなと思っております。

具体的には、例えばカードの利用の仕方についての講習会等の要望があれば、対応していきたいと考えておりますが、現在どういう方向に行くか、まだわかっておりませんので、できる限り住民の方をサポートしたいと考えておりますので、ご理解願います。

○福原委員長 2点目、川内係長。

○川内係長 今ご質問いただきました件にお答えする前に、答弁の修正をさせていただきたいと思います。先ほどの答弁で資格取得事業が中型免許2件のみと言いましたが、この他に大型免許取得2件、合わせまして資格取得事業では4件の事業がございました。

ご質問いただきました、この事業の思い入れのあるというような事業でございますが、やはり一つ気になって、いい事業だなと思いましたが、重ね押しスタンプラリー、これは松前観光協会事業開発委員会が行ったものでございますが、松前観光協会のみならず、高校生を巻き込んだ事業ということで、郷土愛の醸成、また自分達がつくったものが観光客に使われるといった面でも、高校生にとってもいい刺激になったのではないかと。また、滞在時間、観光客の滞在時間の延長等にも繋がっているということで、今後ともこのような事業が出てくるのをお待ちしておりますという状況でございます。以上です。

○福原委員長 質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 総務費に関する質疑はこの程度に留めます。3款民生費に関する質疑を行

います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 民生費に関する質疑はこの程度に留め、4款衛生費に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

職員入れ替えのため、暫時休憩致します。

(休憩 午後 1時12分)

(再開 午後 1時14分)

○福原委員長 再開します。

近江委員。

○近江委員 66ページ、4款1項18節、参考資料39ページ、空家等除却支援補助金について、質問してみたいと思います。

3年間でもってですね、91件の4千970万8千円という実績を持っております。申請を見ますとですね、町内の申請者が32件、町外が59件となっております。これにつきまして、大変進んでおるものだなという感じしております。

今年度の状況につきまして、今年度はどれぐらいあるのかということをお尋ねしたいと思います。

○福原委員長 町民課皆月係長。

○皆月係長 こんにちは。今の近江委員の質問にお答えさせていただきます。今年度、8月31日で今年度の申請を締め切りまして、申し込みがあった件数は24件でございます。24件の簡単な内訳でございますけども、まず神山から小浜までの大島地区6件の申請をいただきまして、その内町内の方からの申請が1件、町外の方からの申請が5件でございます。茂草、館浜の小島地区からは5件の申請をいただきまして、町内の申請の方が4件、町外の申請の方が1件でございます。建石から大沢の本町地区は7件の申請をいただきました。町内の方が4件、町外の方が3件の申請をいただいております。荒谷、白神の大沢ブロックは6件の申請をいただきまして、町内の方が4件、町外の方から2件の申請、合わせて、全てで24件の申請をいただいております。以上でございます。

○福原委員長 近江委員。

○近江委員 全町地区において、一円にですね、ある程度申込件数が一円になったなという感じ受けます。まだまだ空家につきましてはあると思いますけども、今後どれぐらいの把握をしているのかわかりませんか。わかっておりましたら、お伝えください。

○福原委員長 町民課岩城課長。

○岩城課長 それでは、私の方から空家の方の状況について、ご説明します。昨年、各町内会の方におきまして、空家の調査をお願いしております。その中で、その集計を今精査をしている段階なんですけども、各町内会さんの方から挙げた空家等については、600件ほど空家がありますというような状況で、その中で危険な空家と思われる件数については、100件程度あるということで、その他危険な、本当に危険な倒壊がされるような空家については、防災上の関係で40数件ほど把握してるような状態であります。以上です。

○福原委員長 近江委員。

○近江委員 まだまだ600件あるという感じでございますのでね、なるべく防災上の問題等もありますので、なるべく処理的に迅速にするように要望して質問を終わります、質疑終わります。

○福原委員長 沼山委員。

○沼山委員 決算書65ページ、1項3目12節インフルエンザ等予防接種委託料について、説明資料38ページです。接種費用の助成をした実績が1千896人ということですが、助成対象外の接種者数を含むと、これは何人になりますか、教えていただきたいと思ひます。

合わせて、その希望者に、このインフルエンザワクチンが届いたのかどうなのかということをお聞きしたいと思ひます。

○福原委員長 保健福祉課堀川課長。

○堀川課長 インフルエンザワクチンの接種の状況にということでございます。昨年度は皆さんに補正予算を挙げて、非常に希望者が多かったものですから、例年より相当数の方がこの接種を受けてございます。それで、私どもで把握している範囲では、助成以外、対象以外の方々が約300人ほど、このインフルエンザを受けてるというようなことで状況は踏まえているところでございます。

それから、65歳以上、ご存じのとおり接種の予算、決算の絡みといいますと65歳以上の方は1回のみ接種。それから、12歳以下については2回接種ということで、接種人数と決算上の数字、実延べ人数がちょっと異なる部分がありますが、前年対比では、約550名ほどの方が多く接種されてるという状況で確認しているところでございます。よろしくお願ひ致します。

聞いている範囲では、希望者の方々には既に全員には接種されてるというふうに聞いてございます。

○福原委員長 沼山委員。

○沼山委員 希望者にも行き渡ったということでございますが、昨年のおそらく10月あたりはないとかあるとか、入荷が見込めないとか、様々情報が行き交ったことで、町民が急いでワクチンを接種したいということで殺到したのかなど。情報もちょっと錯綜してあったのかなという気します。

そこで、ワクチンの接種現場の運営もある程度苦慮もあったのではないかなという気しています。高齢者含めた様々ないろんな人との対応されたと思ひますが、この接種対象、接種体制はどうであったのか。また、次年度に引き継ぐべき事項があれば教えていただきたいと思ひます。

○福原委員長 保健福祉課堀川課長。

○堀川課長 沼山委員がおっしゃられるとおり、希望者が多かったことと、それからワクチンの入手状況が右往左往したという状況で、当初の段階では、いろんなご心配とか不安がなされたところでございます。

それで、コロナ禍の中の接種でございますので、蜜を避けるために集団接種という方法もとらせていただいてというの、一因にあったのかなと思ひます。それら、昨年度の検証を踏まえまして、今年も既に広報で周知されてるのとおり、集団接種を実施するという、今周知してるところでございますので、今回は集団接種については、コロナワクチンの方の集団接種等々の状況も踏まえて、いろんなところを改善しながら、昨年度の課題を整理して、混乱のないようなことで、我々は委託者になりますけれど、受けていただく町立病院さんの方とも協議して、なるべくスムーズな接種、不安のないような接種という

ことで、今協議してる最中でございますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○福原委員長 沼山委員。

○沼山委員 ぜひですね、今のコロナワクチンの接種体制、町民から非常に評判が良いです。そういった意味ではですね、そういったノウハウも活かしながら、ぜひ接種体制の方お願ひしたいと思ひます。

そこで、このインフルエンザ接種、昨年希望者に行き渡ったということではありますが、実際にこのインフルエンザの予防接種の効果として、インフルエンザに感染したという症例は何例ありますか、教えていただきたいと思ひます。

○福原委員長 保健福祉課堀川課長。

○堀川課長 インフルエンザワクチンにつきましては、ご承知のとおり、予防接種法の中の法定接種の位置付けされてございます。当然感染症でございますので、医療機関等々においては、発生した場合には報告するような状況にもなっております。我々が把握して居る中では、町立病院さんの情報の部分ですけれども、昨年度については、このインフルエンザについては、1人もいなかったというふうな状況で聞いてございます。よろしくお願ひします。

○福原委員長 沼山委員。

○沼山委員 1人もいないということで、普段からワクチンの効果もありましようけれども、普段から手指消毒、そしてマスクの着用、密を避けるということが、これ程まで感染症に対しては効果があるんだということをですね、再度認識した次第です。ぜひ、今後でもですね、今デルタ株が出て来てますけれども、そうした予防体制をしっかり、町民にまた啓発活動を起こしながらですね、しっかりやっていっていただきたいと思ひます。

○福原委員長 答弁は。保健福祉課堀川課長。

○堀川課長 正しく沼山委員のおっしゃられるとおり、正しく新しい生活スタイル、これをコロナワクチン、コロナの予防の部分で全国的に始まりましたけれど、委員おっしゃるとおり、これが全ての疾病の予防に繋がるというものが、目の当たりにしてわかる事例だったのかなというふうに思ひますので、いかに日々の消毒、それからマスク、うがい等々が大事かということで、今後の住民生活、通常の暮らしにおいてももしっかり周知徹底含めまして、取り組んで行きたいと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○福原委員長 質疑ありませんか。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 衛生費に関する質疑はこの程度に留めます。5款労働費に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 労働費に関する質疑はこの程度に留め、6款農林水産業費に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

説明員入れ替えのため、暫時休憩します。

(休憩 午後 1時27分)

(再開 午後 1時29分)

○福原委員長 再開します。

6 款農林水産業費に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

堺委員。

○堺委員 この款に関しましては、当時クマの堺と言われたぐらい、クマに対して質問しましたけども、今回はシカに対しての質問をさせていただきたいと思います。

ページ71ページ、2項1目12節委託料、クマ駆除に関してちょっとお聞き致します。今回のクマ駆除は100頭というすごい数の頭数を予算付けしていただいて、そのとおりでまた駆除された。ただ、私にしてみれば、シカ、シカ、クマでないです、申し訳ないです。いやいや、シカって言うてるよ、クマって言った、申し訳ない、ついクマの方に力が入っちゃって。シカの方でございます。

前課長の佐藤工前課長とはよくバトルしたもんなんですけども、まだ結論は出てないもんですから、ここでもう一回やってみたいなと思っております。

他の地区でもシカの肉、製品にして出してるというところもあるように聞いたんですけども、それは、やっぱり駆除された中からそういう製品化されているんでしょうか。お伺い致します。

○福原委員長 農林畜産課福井課長。

○福井課長 ただ今のシカの肉の加工ということになるかと思えます。こちらについては、今一般に出回ってるものはかなり精度よく、きちっと駆除というか狩猟して、それを衛生面から何かきちっと整理したうえで行われているという形ですので、一般的な駆除したものについては、結局狩猟の仕方だとかそういうものも含めて、なかなか商品になっていかないということになっています。

それで、今函館あたりでやってるのも、直営で獲ったものをシカ肉にしているという形というふうに聞いております。以上です。

○福原委員長 堺委員。

○堺委員 そしたら、この駆除されたシカ肉を製品化はしてないってことなんですか。

もったいないような気もするんですけど、これを何とか製品化できるような方法ってないんですかね。これだけの頭数を駆除して、その肉をただ産業廃棄物みたいな感じで捨てるってのも、これもまたもったいない話でありますし、できれば缶詰かなんかにでも製品にしてね、販売したり、ここの地区の人との食文化に入れたらどうかなっての感じてるもんですから、その辺のところのサポートって言うんですか、何とか製品化できるようなサポートってできないもんでしょうか、お伺い致します。

○福原委員長 農林畜産課福井課長。

○福井課長 それをすとなれば、かなりの規模の加工施設ということと、そのシカを獲ってからそういう加工場に持って行く時間、それを短い時間で持って行って、加工するにしても一回あたりの処理する時間も結構かかるもんですから、なかなか松前町においては、駆除したシカを肉に加工するという事は難しい状態となっております。

○福原委員長 堺委員。

○堺委員 松前町だけでもこれだけの頭数が駆除されてる、この近隣町村を加えると相当な頭数が駆除されているのかなと思うんです。であれば、例えば屠殺場みたいな、処理する場所を広域でもってですね、運営して、それでこういう製品化に繋げるという方法もあるんですけども、いかがでしょう。

○福原委員長 農林畜産課福井課長。

○福井課長 シカの状況だとか、そういうのもあるもんですから、近隣町村集まって、それを肉に加工するというふうになっても、なかなか生産に対する、経費に対する収入ですね、それが見込まれないかなと思います。

それと、その加工をするための専任の職人というか、そういう方も必要になってくるかと思うので、4町の中で検討したことはないんですけども、なかなか難しいものというふうに考えております。

○福原委員長 堺委員。

○堺委員 実を言うと、私もシカの缶詰を食べたことがあるんですけども、やっぱり製品化してほしいという考え方の方もおられます。何とかその辺サポートできればいいなと思いついて、今回はこの質問をしたわけですけども、やはりこれも結論でないで終わってしまうのかなという感じです。終わります。

○福原委員長 飯田委員。

○飯田委員 決算書71ページ、同じページのもので、説明資料の46ページですね。2項1目の林業振興費の下の段の方、18番負担金補助及び交付金なんですけど、ちょっと単純なことをお伺いしたいんですが、島前線の改良工事ってのは、これ白神から松浦の道路のことでよろしいでしょうか。

○福原委員長 農林畜産課福井課長。

○福井課長 上川の入ったところから温泉の付近をかすめるようにして入って行って、松浦のところに抜ける道路という形になります。以上です。

○福原委員長 飯田委員。

○飯田委員 上川っていうと、入口のゲートは石崎に抜ける道路と同じというところよろしいですか。

○福原委員長 農林畜産課福井課長。

○福井課長 先ほどですね、福島側の方、ちょっと間違えました、訂正させていただきます。白符のところになります。

それですね、こちら側の入口の方、上川から石崎に行くところの途中で右の方に入るところがありまして、そこからになります。以上です。

○福原委員長 飯田委員。

○飯田委員 これは、例えば何か災害があった時の避難路ではなくて、あくまでも林道っていう認識でよろしいでしょうか。

○福原委員長 農林畜産課福井課長。

○福井課長 あくまでもこちらの方、林道という形になりまして、林道ということで、道路の幅もそんなに広くないという形になりますので、通り抜けることはできるんですけども、通常の走行でもって行き違いすると、そういうことについてはなかなか難しい道路というふうになっております。以上です。

○福原委員長 他に。

沼山委員。

○沼山委員 決算書71ページ、2項1目12節クマ駆除対策、説明資料45ページです。捕獲頭数22頭ということですが、平成30年度では25頭捕獲しています。令和元年度では10頭の捕獲です。捕獲数だけ見て、必ずしも多くなったり少なくなってるってことは言えないと思いますが、実際のところ、松前町含む隣接地域のクマの個体数が増えているのかどうなのか、担当課の方でわかる範囲でちょっとお願いしたいと思います。

○福原委員長 農林畜産課福井課長。

○福井課長 報道とかで見ると、全般に増えているというふうには聞いてるんですけども、私どもの方で個体数の調査とか、そういうことはしていないものですから、実際のところ増えてるかどうかなのか、そこについてははっきりわからない状態となっております。

出没の通報件数については、令和30年度が63件ほど、令和元年度では90件、それから令和2年度では63件という形で推移しているところでございます。以上です。

○福原委員長 沼山委員。

○沼山委員 一説によると、クマは増えてるんでないかという話も聞きます。それでですね、道内でもクマによる人的被害が多発しています。畑に行く人も気持ち悪くていけないという方もいらっしゃる。当然防災無線等で出没情報、目撃情報、それから注意喚起をしているわけですが、これまでの出没情報、目撃情報、それから捕獲場所など、それらを蓄積されたデータを集めて、クマ出没情報マップというものを作成しようなどという試みはありませんか。

○福原委員長 農林畜産課福井課長。

○福井課長 今現在もホームページの方でクマの出没情報、そちらを掲載しているところがありますので、そちらの方、松前町の方では出没があればその都度登録しております。それが全道規模で登録して見えるよっていうふうにはなっております。以上です。

○福原委員長 沼山委員。

○沼山委員 ホームページは、ちょっと気がつきませんでした。ただですね、やはり町民に、高齢者もなかなかホームページを見るという機会もおそらく少ないだろうと思います。そういった意味では、その危険を見えるものとして知らせるということも、非常に大事な視点かなという思いが致しますので、今後もしそういうふうな方向で考える余地があるのでしたら、そういうことも考えて見てもいいのではないかなという思いがしたものですから、その辺のところをもう一度確認させてください。

○福原委員長 農林畜産課福井課長。

○福井課長 先ほどの答弁の中でホームページと言いましたけれども、松前町のホームページではなくって、「ひぐまっぷ」というところがありまして、そちらの松前町のホームページでないと掲載されているよっていう形になっていますので。

それでですね、今後出没が全町あちこちになってくるものですから、なかなかこの辺ってというのは、それとクマが結構移動して歩くよっていう部分でも、ここにいましたよっていうのがありますけれども、なかなか目撃場所はわかるものの、現実にとどの辺にいるかよっていうこともなかなか難しい状態となっております。

今後、その状況を見まして、町内でわかるようにするかどうか、ちょっと検討していきたいんだというふう考えております。以上です。

○福原委員長 沼山委員。

○沼山委員 ひぐまっぷよっていうものあるよっていうことは、全く知りませんでした。やはり町民の目に届くような、あるいは耳に届くような、そして危険が見えるというような、もうちょっと親切なもので。

聞くとところによると、クマは同じところで捕獲されても、また同じところに出てくるというような傾向があるんだという話も聞きます。そういった意味では、データ化はそんなに難しいものなのかなという気しましてですね、情報として集まったものを町民に知らせるよっていうことの意味でございましたので、よろしく願います。

○福原委員長 農林畜産課福井課長。

○福井課長 今後ですね、町民の皆さんにも注意喚起を含めて、できる限りいろんな情報

伝えて行きたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○福原委員長 質疑ありませんか。

西川委員。

○西川委員 関連してと言えば失礼なんですけども、ページ71の委託料、クマとシカの件なんですけど、クマの場合は北大のクマ研の研究にもありますようにですね、移動距離がある個体によっては100キロもあるというふうな話もあります。従って、今回福島町でああいう人身事故があったクマが、松前に現れても別に不思議がない状態であります。

今回決算のこれ見れば、資料見れば22頭、銃で8頭、檻で14頭っていう出てますけども、まず、今年度は今の段階で何頭ぐらいあれなんですかね。それだけ、ちょっと教えていただけませんか。

○福原委員長 農林畜産課長福井課長。

○福井課長 今年度のクマの捕獲した頭数ということかと思えます。今年度ですね、今現在でちょっと若干ずれるかもわかんないんですけど、確か14頭捕獲になっております。以上です。

○福原委員長 西川委員。

○西川委員 渡島半島のこの前の報道によりますと、生息数が1千840頭ということで、増えているのは間違いないと思います。ただし、今年ですね、クマ、私もあまり目にしないんですよ、実は。けども、たまに目にするクマが従来のクマと違ってものすごく人慣れしてるって言いますかね、そういう傾向がありますんでね。

それと、シカの関係もあるんですけども、年間130万で100頭、元年度も100頭だったはずですね。これも今回の決算では、銃で63頭、罠で37頭ということなんですけど、クマの関係で行きますと、どうも、こう駆除したシカの肉を狙ってクマが里に下がってきてるような傾向があると聞いてます。

それでですね、やはり餌が変われば、餌が十分にあればクマっていうのは冬眠しない傾向があると、最近随分冬眠しないクマが見られるんですよ。これは、我々が一番今心配してるのは、クマ、シカとももう少し駆除の頭数を増やしてもらわなければ、ちょっとまじいんじゃないかなっていうふうに思うことが多々あります。

それと、私は人に頼まれなければこういう質問をしないんですけど、小さい園芸農家ですね、もう高齢化で今年辞めようか、来年辞めようかっていう方々から、こういうふうにシカの被害も出てきて、畑しても何の楽しみもなくなって、来年から畑辞めようって言う人が結構いるんですよ。そういう意味で、私はね、この松前の食文化を守るためにも、これは何とかしなければいけないなと思って。今回の決算では黙ってられないで、こう立ってるんですけど。

本当に、これは町長、副町長にもお願いしたいんですけど、クマもシカもですね、本当に人数決めて、松前町の場合は100頭なんですけど、やはりせめて4町で協力して、何とか渡島半島でも、渡島西部4町だけでも連携していかなければ、なかなかクマもシカも減らしていくっちゃうのは難しいかなというふうに感じております。シカは本当にね、窓をのぞくだけでも人慣れしてきておりますんで、ぜひこれはね、町長と副町長にお願いして、特にシカの場合は知内町から増えてきてますんで、知内町にはちょっと圧かけてですね、積極的に働きかけてほしいなというふうに思っております。

私、今一番心配してるのはですね、このシカもクマもなんですけど、なかなかハンターが、ベテランのハンターが高齢になっていないと。残ってるハンターはいるんですけど、なかなか素人に毛の生えたような見せかけハンターが多くて、本当に心配してます。そう

いう意味ではね、檻、罾はいいんですけど、銃器でとる、駆除するのはなかなか難しくなってくるというふうに思うんですよね。そういった意味では、やっぱり何て言うの、ハンターの養成って言うか、そういうのも必要になってくるし。これは松前町だけではできない話でございますんで、特に今出しました知内町は結構なハンターの数がおりますしですね、今度ぜひ4町の連携で、駆除対策をしてほしいなというふうに思いますが、その辺町長にお願いしておきたいなというふうに思います。

それと、このシカの特に100頭の上限、何とか来年に向けてですね、あともう30頭でも、50頭でも増やしていただけるように予算立てしていただければありがたいなあとふうに思っております。

あともう一つだけ、ついでですから、ページの次の72ページの水産振興費の漁業支援総合補助金ですか。これの関連で少し質問してみたいと思います。

この説明資料48ページを見ますと、未利用海域藻場造成試験事業100万円ってありますから、石カゴの設置、原口地区ですね。これ、具体的に海藻と言ってもいろいろありますんでね、具体的にはどういう種類の藻なんでしょうかね、海藻。

○福原委員長 暫時休憩します。

(休憩 午後 1時52分)

(再開 午後 1時52分)

○福原委員長 再開致します。

1点目、副町長。

○若佐副町長 西川委員の質問にお答えさせていただきます。ぜひその辺のところは、生きがいとして畑なさってる方、いろんな食文化のお話もございました。少しでもそれが継続できるように、またいろんな意味で、シカなんかは車とぶつかったとか、そういう被害もですね、人的な被害が出る前に、やはりある程度の駆除は必要かなと思いますので、そういうところ、できる範囲で4町ともいろいろ協議しながら、その辺のところは対応の方図ってまいりたいと思っております。よろしくお願い致します。

○福原委員長 水産課渡辺課長。

○渡辺課長 ただ今の西川委員のご質問でございます。未利用海域藻場造成試験事業ということで、原口地区です。これは、石カゴを、原口地区の漁港の整備で石カゴを使いました。それで、その使い終わっていらなくなった石カゴなんですけども、地元の方からこの漁場の部分が、すごく砂だとかでウニの生育にあまり良くないんで、できればそれを利用してその場所にウニを入れたいもんですから、そのものを利用して入れてもらえませんか。そして、そこにコンブだとかの餌を生えさせて、そういう取り組みをしたいということで、石カゴを原口地区の漁場って言いますか、未利用漁場に設置した経緯でございます。

○福原委員長 西川委員。

○西川委員 クマとシカの問題はいろいろありますんで、この辺で止めておきますが、ただ、その地区によっては何て言いますか、防護柵って言いますか、そういうところに補助してるところもありますしね、これからいろいろな会をもってそういうのも検討してほしいなということだけ、お願いしておきます。

未利用藻場の造成なんですけども、これに関連にしましてですね、この決算の中でも、今年度の予算の中でもノリの、ノリって言うか岩ノリの話は全然出てきてないんですけど、

これだけ評価されている松前ノリ、しかもマスコミでもね、NHKあたりでもあれだけ高い評価されてる松前のこの岩ノリが、どこにも出てきてないっていうのは、大変寂しい限りでありまして、この特に海藻類の中で、コンブのみが注目されてるんですけども。

松前岩ノリは、今回、また何だっけ、小田豊四郎賞ですか、そういった文化ね、食文化発展に寄与したということで、こういった賞ももらっておりますし。また、この前藩屋敷の30周年記念の中でも、何たっけ、ハンバーガーボーイズだが何か、スルメイカちょこっと、あとコンブコンブコンブでのりだんだんで、そういうものすごい松前のブランドになってるようなノリがどこにも出てこないっていうのは、何か寂しい思いがありますし、これだけ評価の高いノリ、我々ノリについてはあまりにも知識がないって言いますか、本当に思っております。

ちょっと日本藻類学会、ここは調べによりますとですね、この原口から白神までのこの沿岸だけで4種類の岩ノリがあるというふうなことも聞いております。そういった中でですね、もしできれば、できれば、何て言いますか、ノリのサンプルをちょっと採取しまして、標本にして、評価の高い岩ノリを、松前岩ノリを後世に伝えていけたらなというふうな、ある人からの提案ありました。そういうこともありますのでね、ぜひこの未来に誇りを持って伝えていくような対策って言いますか。

本当にこれも、やはり先ほど言いましたハンターと一緒に、なかなか手摘みの拾い方々もいつまで続くかわからないし、そういった意味では、大事に引き継いでいかなければならない事業ではないかなとふうに思います。

そういったことで、来年度に向けてまたぜひこの岩ノリについては、調査研究して何か反映していただけないものでしょうか。ちょっと、その1点だけ聞いて終わります。

○福原委員長 まず1点目、福井課長。

○福井課長 先ほどの畑の関係の柵の関係ですね、柵の方については、それが有効ということで畑を守るという部分では、近隣の町、確かやっているとこあったかと思っておりますので、その状況もちょっと教えてもらいながら、どのような形でできるか、ちょっと検討していきたいなというふうに思っております。以上です。

○福原委員長 2点目、水産課渡辺課長。

○渡辺課長 ノリの件のご質問でございました。我々も松前のいわゆるノリですね、このノリにつきましては、3、4年ほど前からまず松前にどのようなノリが、どのような時期に生えてくるんだろうという調査をですね、北大の水産学部の先生にお願いしまして、ずっと3年程度追ってきました。

それで、松前の今の現状、松前の白神沿岸、特に白神沿岸なんですけども、3種類のノリがそれぞれどういう時期にどういう形で生えてるっていう部分の報告は、いただいてまずあります。それで、なかなか今の岩ノリの増養殖って言いますか、増やすって、人手増やすっていうのが結構面倒な部分あるんですけど、北大の先生のご助言によりますと、やはりいい磯場がまだ残ってるんで、最大限にそういう部分については、あまり壊さないように上手く利用して、ずっと利用していければいいんじゃないかなと、こういうご助言をいただいております。

それで、その中で、北大の先生が今、岩ノリもそうですけども、松前で青ノリが全く利用されていないと。本州ではすごい希少価値があるんで、青ノリっていう部分をもうちょっと商品化できないかということで、今は青ノリの部分について、いろいろ施行錯誤して、北大の協力も得ながら今進めているところでございます。ですから、岩ノリの部分の分布だとか、そういう繁茂する条件ですとか、それについてはある程度、我々先生の方からご

助言いただいております。

ただ、今委員おっしゃるとおり、この加工技術、昔ながらの加工技術、我々の年代になればほとんど、なかなかわからなくなっていってることでもありますので、その辺後世に残していくためにはどのようにして、例えば映像で残した方がいいのか、そういう部分については今ご指摘いただいたようなこと、我々もそう感じますので、何とかそういう技術を後世に絶えないようにするよう、何かいろいろそういう部分について、検討させていただきたいと思っております。以上です。

○福原委員長 質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 農林水産業費に関する質疑はこの程度に留めます。

暫時休憩致します。

(休憩 午後 2時02分)

(再開 午後 2時16分)

○福原委員長 再開致します。

7款商工費に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

正田委員。

○正田委員 7款の商工費となりますけど、これ75ページ、よろしくお願い致します。その18節の松前グルメ観光PR事業負担金、それと新型コロナウイルス感染症緊急経済対策の復興観光PR事業の負担金、それと同じく復興観光物産展事業補助金の3点についてお尋ねをしたいと思います。

まず、1点目でございますけれども、松前グルメ観光PR事業負担金についてでございますが、決算説明書資料51ページに説明がついておりますけれども、各イベントが中止となる中で、さくらスタンプラリー、それからシエスタ函館プロモーション、STVラジオ松前町のPRをどのような形で実施されたのか、お聞きしたいと思います。まず、これが1点目です。

それと2点目ですが、復興観光PR事業負担金についてで、決算説明資料86ページに説明がございますが、この事業を通してどんな効果が得られたかをお知らせください。

それと3点目ですが、復興観光物産展事業補助金について、決算説明書資料87ページに説明がございますが、出展数と売り上げの効果はどういう形であったかをお聞かせください。以上、まず3点でよろしく申し上げます。

○福原委員長 1点目、2点目、3点目、商工観光課田中課長。

○田中課長 まずは1点目、各イベントが中止となる中で、それぞれの事業をどのように実施したかですが、まず記載のスタンプラリーにつきましては、5月1日、松前町桜の日を記念して始めた事業として、スタンプラリーの完走者に松前町のオリジナル卓上カレンダーをプレゼントするといった事業になってございます。

毎年さくらまつり開催に合わせまして、カレンダーを作成しておりますが、令和2年度については、作業途中でさくらまつりの中止が決まりまして、スタンプラリーが実施できなかったことから、姉妹都市やふるさと松前会に配布をしましたり、さくらまつりの代替事業として観光協会が実施した事業で、大漁くんプロジェクトの粗品に活用したり、またはSNSのプレゼント企画、旅行エージェントに配布するなど、コロナ禍において来年度

に繋がるようなPRに活用をさせていただいてございます。

次に、シエスタ函館プロモーション、こちらにつきましては、中咲き以降の桜を函館市近郊の方に知ってもらおうと、函館市本町にあります複合商業施設シエスタ函館でさくらまつりのPRの計画をしたものであります。計画した内容につきましては、店内に桜の枝を装飾しまして、大型モニターによる観光ビデオ上映、松前神楽の特別講演、松前漬け体験など、松前の魅力を発信する予定でしたが、こちらもさくらまつり中止となり、各イベント取り止めまして、用意した桜の枝を店内に装飾し、桜の紹介のみ行ったといった形になります。

それと、STVラジオ松前町PRですが、こちらは松前町顧問の大山慎介氏がパーソナリティを務めておりますラジオ番組のプレゼント企画に特産品を提供しまして、電波を利用した効果的な観光宣伝を行ってございます。2点目の復興観光PR事業を通して、どんな効果が得られたかであります。復興観光PR事業につきましては、CM動画の製作、松前町公式LINEによる会員募集、更に観光物産協力店の認定を行ってございます。松前町公式LINEでは、松前町を応援してくれる方を会員として登録できたこと、それと食と観光のPRの拠点となる松前観光物産協力店による発信力が増したことは、今後の観光を進めるうえで大きな成果というふうに考えてございます。

また、3点目の観光物産展の出展者数と、出展者の売り上げについてであります。出展者は4店舗、売り上げは322万円。出展販売の他に物産協会の詰め合わせ商品を大丸百貨店のウェブショッピングで販売した売り上げが94万円、合計416万円の売り上げとなっております。以上です。

○福原委員長 疋田委員。

○疋田委員 はい、わかりました。

次に、テレビ、ラジオなどマスメディアを使ったPR効果は、何よりも大きいと思いますので、今後も継続して取り組んでください。これについては、回答はいいません。

それと2点目ですが、松前町のファンを増やすLINEの取り組みは、観光物産協力店の情報発信の拠点を持たせたことは、今後の松前観光にとって大きな武器と考えますが、この取り組みをどのように展開しようと考えているかをお聞かせください。

それと3点目ですが、松前町特産品の消費回復に大きく貢献されたと思いますけれども、今回っきりの出店か、それとも今後もまた予定しているのか。以上をお聞かせください。よろしくお願い致します。

○福原委員長 1点目、2点目、3点目、商工観光課田中課長。

○田中課長 先ほどの2点目の松前観光PR事業の関係かと思えます。松前町公式LINEと観光物産協力店の今後の取り組みについてですが、松前町公式LINEの登録者数であります。昨日現在1千873名が登録されてございます。これまで会員獲得のためにPRカードを作成を致しまして、さくらまつり会場で配布をしましたり、観光リーフレットを送る際に同封させていただいたり、宣伝物にQRコードを貼るなどしてPRした結果、順調に増えているというふうに考えてございます。

特に、特産品のプレゼント企画の際に、登録者数が増えている傾向にありますので、物産協会とも連携を図りながら、買い物客にPRカードを配布していただいたり、またプレゼント企画に協力をいただくなど、会員確認に努めていきたいというふうに考えてございます。

また、観光物産協力店につきましては、昨年11月21日に東京新宿駅近くの居酒屋新宿美禄亭を協力店に認定を致しまして、松前町の食材の仕入れ、提供できる体制になっ

てございましたが、コロナ禍で提供数が伸びていないというのが実態であります。

食を通じた松前観光の情報拠点として、大いに期待できることですので、まずはコロナが収束し、松前町の食材を安定的に提供できるように支援をしていきたいというふうに考えてございます。

また、3点目の松前町の復興観光物産展事業の関係かと思えます。今後の出店予定についてですが、昨年度は新型コロナウイルス感染症緊急経済対策と致しまして、特産品の消費回復と収束後の観光需要喚起を目的に実施してございますが、観光物産展のある一定の効果も得られたというふうに考えてございますので、今後事業者の意向も聞きながら、今後の出店は考えて行きたいというふうに考えてございますので、よろしくお願い致します。

○福原委員長 疋田委員。

○疋田委員 まずまずご苦労様です。何はともあれ、新型コロナウイルスの感染拡大というのが一番大きい問題ですから、これが終わるような、そういう時期が来てくれればいいんでしょうけれども、ただ、それはなかなか難しいものですから、今の松前町らしく0人ですか、その調子で頑張っていってくだされば、観光事業も大いに膨らんでくるのかなと思っておりますけれども、そこら辺きちんと皆様方で頑張っていただければ、非常にありがたいなと思っております。以上です。答弁ありません。

○福原委員長 他にありませんか。

近江委員。

○近江委員 74ページ、7款1項1目18節、参考資料として82ページから85ページ、新型コロナ感染症緊急経済対策について、お尋ねをしたいと思います。

飲食店等応援クーポン券発行事業補助金、生活応援商品券発行事業補助金、新北海道スタイル普及促進事業補助金、宿泊施設事業継続支援金、消費喚起キャンペーン事業補助金、これを合わせますと、6千489万5千円という大変大きな資金が投入されております。また、クーポン券、商品券、支援先の特定支援金などの発行の際の時々に応じてね、職員の皆様は大変労苦を強いられたものというふうに思います。大変ご苦労様でした。

これらの事業に対しましてね、経済効果をどのように感じているのか。それと、各事業での反省すべき点がございましたら、お聞かせいただきたいと思えます。

○福原委員長 商工観光課佐藤課長補佐。

○佐藤課長補佐 ただ今近江議員より質問がありました、新型コロナウイルス感染症緊急経済対策の効果と課題、反省ということだと思います。

まず、一つ目、飲食店応援クーポン券発行事業については、町内の29店舗の飲食店が参加し、現金での買い物1千円ごとに500円のクーポン券を発行し、そのクーポン券は、発行店以外の28店舗で使用するというので、7月から8月の2ヶ月間の間で実施しました。経済効果については、発行枚数が2万353枚、回収枚数が1万8千794枚、合わせて合計金額が、2千975万円の経済効果がありまして、事業終了後の参加店等のアンケートを行った結果、9割の店舗が消費拡大の効果を実感できたという回答をいただいております。合わせて、今後クーポン券の単価を下げても実施していただきたいという声もいただいております。

課題と致しましては、29店舗、各店舗に利用頻度に結構大きな差があったこと、それと1回のお買い物でのクーポン券の発行枚数が上限を設けていなかったため、ある店舗では10万円のお買い物を致しまして100枚、5万円分のクーポン券を発行し、開始早々に品薄状態になってしまったということも報告されております。

次に、生活応援商品券については、7月31日現在の松前町民に対しまして6千円分の

商品券、これは限定券3千円分、加盟店分の3千円分でございます。店舗数は188店舗で利用可能となっております。経済効果については、500円券が合計8万201枚、金額に対しまして4千10万円分が利用されておりました、個人消費の回復と合わせて、町内経済の活性化が図られたものと考えております。

課題については、限定券、共通券各6枚3千円分を配布しておりますが、約3分の2が大型店に流れてしまっているということで、今後は共通券の地元店舗の利用が課題となっております。

次に、新北海道スタイル普及事業でございます。これは、松前商工会と木古内地方食品衛生協会松前部会と協力致しまして、ハンドソープと感染予防啓発チラシを配布したものでございます。効果と致しましては、対象世帯3千903世帯中、3千706世帯に配布され、手洗い等を通じまして感染拡大の予防が図られたと感じております。

反省と致しましては、ハンドソープの配布時期なんですけども、10月1日を予定していましたが、商品の品薄状態によりまして、結果11月20日からの配布となってしまいました。

次に、宿泊施設事業継続支援金ですけども、これは、令和2年4月、5月の売上高、それと令和2年6月から令和3年1月までの売上高に対する前年同月比の減額によりまして、支援金を支給する事業でございます。

効果と致しましては、町内旅館等5事業者に200万から30万円、合計で750万円の支援を行い、事業継続の一助のなったと考えております。

次に、消費喚起キャンペーン事業については、12月1日から12月31日までの1ヶ月間、商工会加盟店84店舗が参加しまして、お買い物500円ごとに1個のスタンプを押印し、6個、3千円分ですけども、が集まると1回応募できまして、抽選により商品を消費者に還元する事業でございます。

効果と致しましては、抽選応募数なんですけども、4万7千736枚の応募がありまして、これ1枚3千円としますと、金額に対しまして1億4千320万8千円の経済効果がありまして、個人消費の回復と地域経済に大きい活性化が図られたと考えております。

課題と致しましては、結果、スタンプ終了後に大抽選会を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響によりまして、延期を含めて考えたんですけども、結局非公開で実施したということになります。以上です。お願いします。

○福原委員長 近江委員。

○近江委員 丁寧な説明ありがとうございます。大変な経済効果だというふうに思っております。

ただ、反省する点といいまして気がつきましたのがね、生活応援発行事業の点につきまして、大型店舗に3分の2以上が流れたという点がね、やっぱり課題かなというふうに思っておりますので、今後につきまして、どのような対策を考えておるのか、お尋ねしたいと思っております。

○福原委員長 商工観光課佐藤課長補佐。

○佐藤課長補佐 先ほど申したとおり、3分の2が大型店に流れております。これは、商工会の方とも協議はしております。地元商店を利用するように、例えば地元商店街で何かキャンペーンをすとか、発行枚数、今回は共通券、限定券で半分ずつ、3千円ずつだったんですけども、これも地域の要望としては、例えば6、4にするとか、そういう要望は来ております。どちらに致しましても、地元消費、地元利用を促すためにも、当然地元の事業者もそれなりの努力しなきゃいけないと考えておりますので、それは商工会の方とも協議

しながら検討していきたいと思っております。以上です。

○福原委員長 近江委員。

○近江委員 大変、松前町の経済がね、コロナ禍でもって大変落ち込んでいます。どしどしね、こういうような企画をつくってですね、やっていただき、職員も大変でしょうけども、頑張っってやっていただきたいなという希望を述べて終わります。

○福原委員長 質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 商工費に関する質疑はこの程度に留め、8款土木費に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 土木費に関する質疑はこの程度に留め、9款消防費に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

近江委員。

○近江委員 82ページ、9項2目14節、大変な異常気象により各地において豪雨の被害が多発しております。コロナ禍における避難の状況、避難道路、あるいは避難場所の整備。それとですね、コロナに対応するパーティション、マスク、フェイスガード、アルコール消毒液等、十分に対応できる状況にあるのかどうかということをお尋ねしたいと思います。

○福原委員長 総務課尾坂課長。

○尾坂課長 災害対策の関係で、大きく2点ほど、避難道路の状況、避難路の状況、それと避難場所の関係です。

それで、まず1点目の避難路の状況なんですけど、町で管理してる部分、全部で73本あります。その内、直接町が整備し設置したものが32本、その他は北海道が急傾斜の工事でやりまして、管理道路と言いますか、管理するための道路、それを利用さしてもらってるものなどが41本、合わせて73本というふうな形になっております。維持管理につきましては、主に草刈りと除雪を町が行っております。草刈り、除雪についても町内会と連携とりながら、協力できるものは町内会の方にお願ひし、できないところについては高齢者事業団の方に委託をしているというふうな形で、維持管理を実施しているところであります。

2点目は、避難所の関係です。現在、臨時避難所も含めて使用可能な避難所、町内に全部で31箇所あります。備蓄品の配置状況なんですけど、各施設に配置してるもの、これにつきましては、保存食セット、ポータブルストーブ、毛布、ラジオ、照明器具などを配置していると。近江委員おっしゃっていましたが、昨年のコロナの交付金を使いまして、2千100万程度、感染症予防対策ということで、パーティションだとかマスク、フェイスガード諸々買っております。それらにつきましては、消防の横に昨年度同じコロナの交付金を使って建設しました備蓄倉庫の中に保管している状況であります。以上です。

○福原委員長 近江委員。

○近江委員 もうちょっと足りないような気がするんですけどね、備蓄に対するパーティションだとかマスクだとかフェイスガードだとかね。やっぱり31箇所に対応すると、いっぺんに対応するってというようなことになるわけですよ、あすこから持って行って。ですから、大島地区であればどっかの地区、大沢地区であればどっかの地区という、そういう備

蓄場所をね、やっぱりある程度剪定しながら、いつ何時そういうのあった場合にね、すぐそこから持って行くと、消防のあすこ、備蓄から持って行くとね、道路が遮断されたり、なかなかスムーズに、円滑にできない場合があるんですね。その辺のことについてね、どのように考えてますか。

○福原委員長 総務課尾坂課長。

○尾坂課長 ただ今近江委員おっしゃってたとおりです。正しく、我々もこれからどうするのか、いろいろ議論はしておるところであります。例えば、学校の空き教室を利用するだとか、その辺もね、教育委員会とも協議しているところではありますが、ただ空いている箇所につきましては、やっぱり学校で何らかで使っているというふうな形で、今ちょっと話はしてるんですけども、それでも少しぐらい、そういうふうな、やっぱり災害が大きくなればなるほど、学校の体育館だとか、そういうところが重要な避難所というふうな形になります。前段で31箇所あるというふうな形で申し上げましたが、大規模になれば、やっぱりある程度集約化をせざるを得ない。他の地区を見てもそのような状況です。だから、やっぱり江良地区であればパートナー、学校、体育館などあるというふうなことで、そういう大規模な施設で集約化をするというふうなことを考えております。

ただ、今近江委員おっしゃるとおり、備蓄品についても分散化しなければならないというふうな形で考えているところではありますが、現在課題として、我々も検討しているところではあります。以上です。

○福原委員長 近江委員。

○近江委員 異常気象による災害の状況見ますとね、松前町にもいつ何時おこることもやぶさかでないんですね。ですから、防災に対するもうちょっとね、町内連合だとか、そういう住民に知らしめる。もちろんハザードマップはつくってるんですけども、十分に対応できるような、迅速に対応できるような。

そして、今ね、テレワークみたいな感じでもってね、災害おきた場合にね、その地区の避難場所と連絡できるようなね、連絡網の構築だってね、やっぱり必要かと思うんですよ。その点についてね、もうちょっと詳しく検討していただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○福原委員長 総務課尾坂課長。

○尾坂課長 正しく近江委員おっしゃるとおりで、様々な課題がまだまだ、我々防災対策やっておりますけどあります。一つずつ、一気に解決は予算の関係もあるので不可能ではありますが、毎年、少しずつ進歩して行きながら対策を練っていきたいというふうな考えておりますので、ご理解願います。

○福原委員長 他に質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 消防費に関する質疑はこの程度に留め、10款教育費に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

説明員入れ替えのため、暫時休憩致します。

(休憩 午後 2時45分)

(再開 午後 2時47分)

○福原委員長 再開致します。

10款教育費に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

宮本委員。

○宮本委員 決算書85ページ、説明書が61ページ、10款1項3目、まず1点目、ALT招致、外国語指導助手のことについてなんですけど、このコロナ禍で、新聞で見たんですけど、一部先生方が帰国されてるってことで、思うように授業もままならないという記事を新聞で読んだんですけど、松前町の場合は今年は大丈夫だったようなんですけども、来年以降のことについて、どうお考えか。

それと、もう1点あります。決算書86ページ、説明資料が64ページ、10款3項1目なんですけども、スクールバスのことについてなんですけども、年に何回か交通安全で立ってるんですけど、生徒数が、部活のせいで少ないのかどうかは時間帯なんですけどわかりませんが、いっつも一緒に立ってる方々が、松前町はお金がない、お金がないって言うんですけど、このバスの生徒数のがら空きはどうなんだということを、バス見る度に言うんですよ。だから、例えばそういう、私が見た限りでも1台に3人から5人くらい乗ってればいい方で、あとは車で行くのか、それとも部活の朝早くて車で行くのか、それだけの人数しかいないのか。

これから例えばスクールバスを減らすって言うか、その時間帯になると大漁くんのバスと、それからスクールバス2台が静浦地区を通るもんですから、その辺のところをちょっと教えていただきたいと思います。

○福原委員長 1点目、2点目、学校教育課佐々木係長。

○佐々木恵一係長 まず、1点目のALTのご質問についてでございます。本年度、7月下旬に今2名ほど任用しておりますALTが、3年の、1年ごとの任期でございますが、3年間の任期を満了致しまして、7月下旬に帰国してございます。当然松前町の指針、教育指針条例に基づきまして、引き続き2名のALTを招致するというところで要望しておりましたが、やはり委員ご指摘のように日本のコロナの状況を勘案されまして、2名とも今キャンセルになりまして、今引き続き要望を致しているところでありまして、昨日の時間外に1人の方が松前町の方に決まっているって言いますか、一応北海道ですとか、関東ですとかいろいろな希望がございますので、その中で北海道、田舎の方がいいっていうようなALTさんがおりまして、1名今候補者がいるところなんですけども、参加同意までまだ得られていない状況でございます。もう1名につきましても、引き続き招致できるような形で北海道の方に要望してまいりたいと思います。

いずれにつきましても、今の英語の教員、一生懸命、先日もちょっとICT関係で授業見させていただきましたが、一生懸命生徒の方に、当然だと思っんですけども、一生懸命やっておりましたので、よろしくお願い致します。

2点目のスクールバスでございます。乗っている児童、生徒が少ないんじゃないかというようにご指摘でございます。まず、松前中学校につきましては、3台バスを運行させております。1台は49人乗りで、登校につきましては、20名乗ってございます。茂草方面、小島方面につきましては、22名乗りのバス、このバスには12名乗ってございます。白神方面につきましては、19人乗りのバスに6名乗ってございます。

小学校につきましては、大島小学校はワゴン車で原口方面を送迎しております。清部の子ども達につきましては、保育所バスを活用させていただいてございます。松城小学校の白神方面につきましては、22名乗りのバスに15人乗車しております。松城小学校の館浜の子どもにつきましては、10人乗りのワゴン車に8人乗っている状態でございます。

空きが多いというようなご指摘でございますが、やはり委員もおっしゃってましたけども、部活動で帰る子ども達、例えば月、水、木、土ですとか、体育館の関係もございしますので、部活動を曜日によって区切ってる関係もございしますので、少なく乗車しているような形に見えるんですけども、そのような形でコロナの感染症も考えながら運行している状況でございますので、よろしくお願い致します。以上です。

○福原委員長 宮本委員。

○宮本委員 よく一緒に交通安全立ってる方々に、よく説明しておきたいと思います。

わかりました、ありがとうございます。

○福原委員長 他に。

近江委員。

○近江委員 86ページ、87ページ、10款1項2目13節から16節、新型コロナ感染症対策としてですね、小学校中学校のトイレの改修、また空調設備、また遠隔授業に対応できる設備などを行っております。大変いいことだなあというふうに喜んでおります。

まだまだ感染症が拡大して、児童生徒に感染が広がっております。各学校においては、オンライン授業や登校時間を変えたりして対応しておるところも多いと聞いてます。松前町において、オンライン授業等の対応はどうか、お聞きしたいと思います。

○福原委員長 学校教育課佐々木係長。

○佐々木恵一係長 オンライン教育に関わるご質問についてでございますが、小中学校での活用はもとより、家庭とのオンライン教育にも対応しました校内ICT環境の更新整備を、令和2年度において実施させていただいたところであります。

ご質問の家庭と学校とのオンライン授業取り組みにつきましては、令和2年度において、小学校においては、全小学校において、高学年を主にして実施済みでございまして、中学校におきましては委託事業の完了の時期の関係上、受験の時期ともちょっと被りまして、令和2年度は実施できませんでしたが、今年度に入りまして、全学年実施済みでございます。

家庭と学校とのオンライン教育の他に、例えば町内の先生方同士の会議ですとか、町外、防災教育、例えば行ったんですけども、その際に函館の气象台の方とオンラインで結びまして、そのような活用もしてございます。以上です、よろしくお願い致します。

○福原委員長 近江委員。

○近江委員 そしたら、もう実際去年行ってるということで捉えていいんですね。そういうことですね。先生方の対応っていうのは、先生方もやっぱりそれなりに準備なり、それに対応しているということですか。その辺ちょっとお尋ねしたいと思います。

○福原委員長 学校教育課佐々木係長。

○佐々木恵一係長 今のご質問でございますが、松前町は何て言うんでしょう、ICT環境につきましては、他の町よりも若干早めに、小学校中学校の統廃合の時点でiPad、今のタブレットを準備させていただいたところでございまして、その延長上ということもございまして、先生方もある程度使い方につきましては、慣れている先生方が多くおります。

年度当初、転入する先生方に対しましてはICTの研修も行っておりますので、そういった意味でそういったICT関係の大手の業者さんが、職員が説明して、そういった取り扱いについても、スムーズにいけるような形で配慮しているつもりでございます。以上です。

○福原委員長 質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 教育費に関する質疑はこの程度に留め、11款災害復旧費に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 災害復旧費に関する質疑はこの程度に留め、12款公債費に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 公債費に関する質疑はこの程度に留め、13款職員給与費に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 職員給与費に関する質疑はこの程度に留め、14款予備費に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 予備費に関する質疑はこの程度に留め、以上歳出に関する質疑はこの程度に留めます。

暫時休憩致します。

(休憩 午後 2時58分)

(再開 午後 3時01分)

○福原委員長 再開致します。

これより歳入各款ごとの質疑を行います。歳入1款町税に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 町税に関する質疑はこの程度に留め、2款地方譲与税に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 地方譲与税に関する質疑はこの程度に留め、3款利子割交付金に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 利子割交付金に関する質疑はこの程度に留め、4款配当割交付金に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 配当割交付金に関する質疑はこの程度に留め、5款株式等譲渡所得割交付金に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 株式等譲渡所得割交付金に関する質疑はこの程度に留め、6款地方消費税交付金に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 地方消費税交付金に関する質疑はこの程度に留め、7款環境性能割交付金に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 環境性能割交付金に関する質疑はこの程度に留め、8款地方特例交付金に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 地方特例交付金に関する質疑はこの程度に留め、9款地方交付税に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 地方交付税に関する質疑はこの程度に留め、10款交通安全対策特別交付金に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 交通安全対策特別交付金に関する質疑はこの程度に留め、11款分担金及び負担金に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 分担金及び負担金に関する質疑はこの程度に留め、12款使用料及び手数料に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 使用料及び手数料に関する質疑はこの程度に留め、13款国庫支出金に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 国庫支出金に関する質疑はこの程度に留め、14款道支出金に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 道支出金に関する質疑はこの程度に留め、15款財産収入に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 財産収入に関する質疑はこの程度に留め、16款寄附金に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 寄附金に関する質疑はこの程度に留め、17款繰入金に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 繰入金に関する質疑はこの程度に留め、18款繰越金に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 繰越金に関する質疑はこの程度に留め、19款諸収入に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 諸収入に関する質疑はこの程度に留め、20款町債に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 町債に関する質疑はこの程度に留め、21款法人事業税交付金に関する質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 法人事業税交付金に関する質疑はこの程度に留め、以上、歳入歳出各款ごとの質疑はこの程度に留めます。

これより認定第1号について総括質疑を行います。

質疑ございませんか。

斉藤委員。

○斉藤委員 1点だけ、総括質疑をさせていただきます。

去年は中国の武漢から発生したコロナウイルスに振り回される1年だったと。それを本年も続いている実態です。予算説明資料の77ページにあるように、5億2千万以上の国の金が入って来て、その支出のために職員が大変苦勞したというふうな思いをしております。この令和2年度の決算を踏まえてですね、来年度はどのような形になるのか。3年度ももう半年、4月から9月、半年が過ぎようとしていますけれども、この決算踏まえて、どんな来年は予算編成をしようと考えているのか、お尋ねをしたいと思います。

○福原委員長 町長。

○石山町長 総括の質疑をいただきました。令和4年度に対しまして、どんな予算編成を考えているのかというふうなお尋ねでございます。

議員ご指摘のように、想定もしなかったコロナ禍の中で、令和2年度の決算を迎えることとなります。この間、感染症予防対策等、または地域の経済対策含めまして、職員が一丸となりまして、この難局に取り組んできたところでございます。

残念ながら、平成3年度も9月でありまして、昨年と、ともすれば同じような年度末を迎える可能性も大分高くなっているというふうに、私自身認識しているところであります。昨年に続きまして、現在もいろんな町の経済対策、それからワクチンの接種等々、職員に

も大変苦勞をかけている中で、3年度の町政の執行を今進めているところであります。

国からの交付金も大変ありがたく利用させていただいておりますし、隅々まで行き届かない部分があるかもしれませんが、万全の体制で、町民の皆さんが安心して暮らせるような状況になっていただければいいなというふうに思っているところであります。

令和4年度、一刻も早くこのコロナ禍が、コロナが収束することを願いながら、職員共々、その状況状況にあった町政の執行を、予算の編成に努力をしまいたいというふうに思っております。委員の皆様におかれましても、本当に私どもと共にコロナ対策、一緒に乗り切っていただければ、協力いただければというふうに思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

○福原委員長 齊藤委員。

○齊藤委員 今年度に入っても緊急事態が続いております。この12日まで緊急事態、北海道も発表しておりますけれども、はたしてこの先どうなるのかという心配もしております。町の経済は最悪です、町長知っているとおりです。ですから、この決算を踏まえて、令和4年度はぜひ町内の業者に日が当たるような政策を実現してほしい、こう願うばかりなんですけれども、町長として、どのような姿勢で取り組もうとしているのか、この点を、決意を述べていただきたいと思えます。

○福原委員長 町長。

○石山町長 重ねての答弁になります。本当に想定もしないコロナとの闘い、まだまだ続くんだらうなと思っておりますし、隅々まで目が届くような体制になれるように、職員の知恵を借りながら、令和4年度の方に向かって行きたいというふうに思っております。配慮した、町民の幸せのために配慮した予算編成、今回の決算審査特別委員会でご指摘をいただいた部分も含めまして、改善できるものを改善しながら、隅々に配慮できるような予算編成に努めてまいりたいというふうに思っているところでありますので、よろしくお願いを申し上げます。

○福原委員長 齊藤委員。

○齊藤委員 正に、私が3回目に言おうとしたことを町長が答弁してくれました。町長一人の力では、何もできないというふうに思っております。職員みんなの力を借りながら、心一つにして令和4年度に向かってほしいということを願いながら、総括質疑を終わります。

○福原委員長 近江委員。

○近江委員 歳入の面で6億9千500万円と、今年はコロナ対策ということで増えました。コロナ感染症対策の内容は、ナンバー1から39までといろいろ多岐にわたって対策を講じております。感染症対策として大いに効果を果たしているものと思われまます。町長の思いを聞かせてほしいなと思えます。

○福原委員長 町長。

○石山町長 やっぱりコロナ禍というふうな状況下の中での決算になったわけでありまして、本当に想定もしないような状況の中で、財源的にも国も一生懸命、北海道も我々も初めての経験でありまして、何とか令和2年度は乗り切ってきたんでありますけれども、引き続き3年度もこういう状況であります。本当に国からの貴重な財源を利用しまして、町の経済も隅々に目が届くような、大変厳しい状況になると思えますけど、配慮しながら進めてまいりたいというふうに思っております。貴重な財源は、有効に町民の皆さんに還元できるように対応してまいりたいというふうに思っているところであります。

○福原委員長 近江委員。

○近江委員 まず、今年はふくらみましたが、来年以降どうなるかわかりません。ただ、国勢調査の中でね、松前町の人口が激減しております。ですから、交付税のね、減額は避けられないものというふうな思いであります。その中でね、いつも気になるのは未収金の問題がね、まだ6千何百万と。職員がそれぞれ一生懸命努力して回収しております。なお一層ね、全庁の、全職員の共通の意識として、その対応していただきたいと思っております。

それと松前町の産業考えた場合ね、漁業水産加工、かつてない大変厳しい状況にあり、明るい兆しが見えておりません。何らかの手立ては必要と考えております。肉牛改良センターについても後継者の育成と、畜産の基盤づくりを期待をしておりますので、その辺につきまして、町長の考え方をお聞かせください。

○福原委員長 町長。

○石山町長 交付税のお話をいただきました。正しく令和2年度は国勢調査の年でありまして、相当のスピードで人口が減っている状況が、つぶさになってきたところでありました。その結果として表れるのが、3年度の普通交付税になるわけでありまして。財政当局もかなりシビアに3年度の予算編成にあたっては、交付税の過大計上にならないような財政運営に、予算編成をしてきたところでありまして。シビアに、シビアに、歳入は控えめにといいような財政予算の基本的な編成方針に従いまして、3年度の予算を組ませていただいたところでありまして。

幸いにも、減収はしておりますけれども、財政当局がシビアに見た分がきちんと数字に表れてきたなというふうに思って、私としては交付税については安堵をしているところでありまして。人口の減少はなかなか止まらない。ってことは、将来も交付税は減額なるというふうな要素は十分ありますので、その部分は十分留意して、弾力性のある財政運営にしていきたいなというふうに思っております。

それから、本当に貴重な自主財源の確保、滞納の処理のためにも職員大変頑張っておりますので、貴重な自主財源の確保に、職員と一丸となりまして取り組んでまいりたいというふうに思っております。

それから、水産の振興であります。やっぱり地場産業、産業を強くしたいというふうな思いは、皆様と私も変わりませんので、水産振興、時間はかかりますけど、かかってきておりますが、今以上に積極的に取り組んでまいりたいというふうに思っています。

それから、肉牛の改良センターであります。順調にきているところでありまして、現在賃貸型の牛舎、更には住宅も含めまして、工事は順調に進んでおりますが、ただ、国の状況がコロナ禍によりまして、資材の確保がちょっと厳しい部分が出てきているというふうにあるやに聞いております。これは、何としてでも順調に整備できればいいなというふうに願っているところでありまして。肥育牛の販売のことも、今回補正予算で提案させていただきました。まず、一挙についたってというふうな状況であります。肥育はするところというふうになるよというふうな、一つの勉強も我々もさせていただきましたので、まだまだ整備の過程でありますけれども、きちんとルールに、松前の畜産のルールに乗れるように進んでまいりたいというふうに思っておりますので、議会の皆様にも、引き続きのご理解をお願いしたいなというふうに思っています。

○福原委員長 近江委員。

○近江委員 松前町においては、課題がまだまだ山積みです。町長筆頭として、職員の皆さんの頑張りを期待して質問終わります。

○福原委員長 質疑ございませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 質疑なしと認め、認定第1号に対する質疑を終わります。

これより討論を行います。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 討論なしと認め、討論を終わります。

これより起立による採決を行います。

ただ今議題となっております認定第1号については、これを認定すべきものと決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○福原委員長 起立全員であります。よって、認定第1号は認定すべきものと決定しました。

暫時休憩致します。

(休憩 午後 3時19分)

(再開 午後 3時33分)

○飯田副委員長 再開致します。

次に認定第2号を議題と致します。

直ちに質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○飯田副委員長 質疑なしと認め、質疑を終わります。

これより討論を行います。

(「なし」という声あり)

○飯田副委員長 討論なしと認め、討論を終わります。

これより起立による採決を行います。

ただ今議題となっております認定第2号については、これを認定すべきものと決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○飯田副委員長 起立全員であります。よって、認定第2号は認定すべきものと決定致しました。

次に認定第3号を議題と致します。

直ちに質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○飯田副委員長 質疑なしと認め、質疑を終わります。

これより討論を行います。

(「なし」という声あり)

○飯田副委員長 討論なしと認め、討論を終わります。

これより起立による採決を行います。

ただ今議題となっております認定第3号については、これを認定すべきものと決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○飯田副委員長 起立全員であります。よって、認定第3号は認定すべきものと決定致し

ました。

次に認定第4号を議題と致します。

直ちに質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○飯田副委員長 質疑なしと認め、質疑を終わります。

これより討論を行います。

(「なし」という声あり)

○飯田副委員長 討論なしと認め、討論を終わります。

これより起立による採決を行います。

ただ今議題となっております認定第4号については、これを認定すべきものと決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○飯田副委員長 起立全員であります。よって、認定第4号は認定すべきものと決定致しました。

次に認定第5号を議題と致します。

直ちに質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○飯田副委員長 質疑なしと認め、質疑を終わります。

これより討論を行います。

(「なし」という声あり)

○飯田副委員長 討論なしと認め、討論を終わります。

これより起立による採決を行います。

ただ今議題となっております認定第5号については、これを認定すべきものと決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○飯田副委員長 起立全員であります。よって、認定第5号は認定すべきものと決定致しました。

次に認定第6号を議題と致します。

直ちに質疑を行います。

質疑ありませんか。

(「なし」という声あり)

○飯田副委員長 質疑なしと認め、質疑を終わります。

これより討論を行います。

(「なし」という声あり)

○飯田副委員長 討論なしと認め、討論を終わります。

これより起立による採決を行います。

ただ今議題となっております認定第6号については、これを認定すべきものと決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○飯田副委員長 起立全員であります。よって、認定第6号は認定すべきものと決定致しました。

暫時休憩致します。

(休憩 午後 3時37分)

(再開 午後 3時39分)

○福原委員長 再開致します。

これより審査報告書について協議致します。

お諮り致します。

本委員会の審査報告書の審査意見については、質疑内容を基に正副委員長において審査意見を作成し、別途送付することにしたと思いますが、これにご異議ありませんか。

(「異議なし」という声あり)

○福原委員長 ご異議なしと認め、そのように決定致しました。

暫時休憩致します。

(休憩 午後 3時40分)

(再開 午後 3時41分)

○福原委員長 再開致します。

お手元に配布致しました審査報告書のとおり、提出したいと思いますが、これにご異議ありませんか。

(「異議なし」という声あり)

○福原委員長 ご異議なしと認めます。

審査意見に特に記載すべきご意見はありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 別途送付する審査意見作成にあたっては、正副委員長に一任願います。

これをもって決算審査特別委員会を閉会致します。

どうもご苦労様でした。

(閉会 午後 3時42分)